

# 新山協ニュース

△ 発行者 平田大六 △ 発行所 新潟県山岳協会  
〒951 新潟市下旭町109 鈴木敏雄方 TEL025-222-9548

## 南極だより 第11号

越冬隊員 片桐一夫

(1997・1・1南極大陸ドームふじ観測拠点FAX発)

南極大陸ドーム基地より新年のご挨拶を申し上げます。1997年の年が明け、いよいよ日本帰国を致します。家族共々、今まで通り宜しくご交誼のほど、お願いいたします。

彼らが目標の岩盤まで掘削出来ることを願ってやまないところです。

ドーム基地よりの通信はこれが最後となると思いますが、「しらせ」に乗船してから(2月1日)また、お知らせ致します。ではこのへんで!

(1・27南極大陸リュツォ・ホルム湾「しらせ」FAX発) しばらくのあいだ御無沙汰しておりました。

昨年、何回もの通信をして頂き、本当に有難うございました。新潟県山岳協会の会員の方々から見守って頂いている思いが充満していました。南海の離島ならぬ南極大陸の孤立した基地では、人間どうしの連帯感が最も重要で必要不可欠です。

こういう事に関連した事や、南極での色々な出来事は山のように皆様にお話する種をたくさんもって帰還致します。

38次ドーム隊は、すでにドーム基地に向かって雪上旅行中ですので、我々先発隊と途中ですれ違うこととなります。

1月19日に私が出発し、S30という地点からアイスコアとともに、懐かしい「しらせ」に収容されました。これ以上下がる気温が上がりてしまいい、コアにとって良くない状態になるからです。この時も良い天気気温マイナス5℃という暖かい日でした。しらせ飛行甲板には、帖佐艦長を始め、38次観測隊山ノ内隊長など多数の方々の出迎えを受け、感動のあまり荷物口から出てしまい、握手と挨拶を右側から始めてしまい、左側に

立たれていた艦長が後回しになり、たいへん失礼なことになる始末でした。しかし、感激もそこそこにただちにコアの冷凍庫搬入作業があり、次々に飛来してくるヘリコプターの合間に甲板のハッチを明け、6便合計273梱のコアが無事、冷凍庫に納まったのは、およそ3時間後となりました。計画段階から15年を経た末に採集されたアイスコアは、4月13日に東京晴海埠頭から陸揚げされて、北海道大学低温科学研究所と、国立極地研究所に運ばれ、その解析が始まります。

### 片桐さんへのご声援 有り難うございました

私の任務はここにほぼ終了したことになります。船内に2泊したあと、21日に昭和基地訪問、23日から3泊4日の日程で南極大陸わずか3%ほど

長いようで短かった1年半あるいは、短いようで長かった1年半かも知れません。白夜で昼だけの半年と、夜だけの半年、たった9人で白一色の世界。神経がおかしく

ならないのが不思議なくらいのドーム基地越冬生活も、仲間のご声援で、所期の目的を達成し、無事帰国となりました。ご声援感謝致します。(長岡ハイキングクラブ)

<b>評議員会案内</b>	
期日	4月12日(土)
会場	長岡市弓町 1-5-1
アトリウム長岡	
理事会	10時30分より
評議員会	13時30分より
懇親会	16時より
懇親会費	5000円
TEL	0258(30)12550

新潟県山岳協会創立50周年記念事業

曲阿加吉瑪峰 (チアチャジマ峰

・5930m) について

曲阿加吉瑪峰登山隊長  
藤井 信

新潟県山岳協会は、創立50周年を迎えることになりました。最も高いメコン川流域、その源頭山塊の最高峰で未踏峰の山、曲阿加吉瑪峰(チアチャジマ峰(5930m))を選びました。

創立50周年特別記念事業については、総務委員会を中心に、どのような行事を行うか、検討を重ね理事会を経て、4月の評議委員会に提案する段取りになっております。

記念事業の一つとして、現在、計画が進められているものが、海外登山であります。この計画は、評議委員会に提案・承認では対応が不可能のため、昨年の11月2日開催の理事会で承認して戴きました。計画を進めております。

記念事業の一つとして、海外登山の山を選ぶにあたり、7000m級以上のネームバリューのある山を選ぶべきだとの意見や声もありました。新山協の現況・経費・参加者の休暇・技術レベル等が不明のこともあり、山こそ低いけど、現在、日本をはじめア

チアチャジマ峰は、中国・チベット高原に位置し、チベット高原の玉樹蔵族自治州の北緯約33度28分5秒、東経約95度11分5秒にあり、中国では、瀾滄江の源頭山塊にあります。瀾滄江は、中国に源を發し、ラオスの辺境でメコン川と名を変えます。

中国の空白地帯、陸の孤島と呼ばれております。過去には、東京農大探検部学生、OBが瀾滄江の源流を廻行しております。

チアチャジマ峰については、全くの未知数であり、中国青海省登山協会からも、これまで外国人へ開放地域でないため、調査、偵察をしていないため、5月の偵察の必要性の連絡を受けております。

チアチャジマ峰へのアプローチは、中国青海省の省都西寧市から、約1500kmもあります。途中、4380mと5700mの二つの峠を越えなければなりません。

陸の孤島、空白地帯とのことを想像して戴けることと思えます。それだけ、手付かずの自然と未知のアプローチと未踏峰の二つを楽しめることが、この度の、新山協50周年特別記念事業、海外登山隊の特色であるかと思えます。

この度の海外登山が、高度の技術が必要な7000m級以上の山、ネームバリューのある高所登山でないため若い人には、不満もあるかと思

ます。しかし、新山協の現況をみると、高所登山の若手の育成と高所登山のリーダーの養成が急務だと思えます。

新山協の若い多くの会員が数多く高所登山を体験する、ことを切望致します。

また、今後の海外登山の計画がクラブ

関川村山の会

横山 征平

- ・ 創立 昭和34年
- ・ 会長 平田大六
- ・ 会員数 50人

○創立の経緯

当山の会の創立を語るとき必ず思い出される影の功労者が浮かんでくる。その一人が、故人になられた、藤島玄さんである。紙面の関係で詳しく書けないが、師は戦時中一時本村に疎開したり、関川村で登山などする者がなかったころから飯豊に入っておられお名前は少年のころからお聞きしていた。

次は、現在下越山岳会に籍をおき、今なお活躍盛んな水原町在任の坂井厚さんである。氏は当会創設当時国鉄マ

画を有利に進めるためにも、各国の岳友との友好を深めることにも、有意義なことと感じます。

以上、概要を申し上げまして、絶大なご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地元では、大石登山口の案内所の若主人であった高橋千代吉(現国体青年女子の監督を勤める高橋賢吉の父)さんである。氏は、山仕事を生業とし、マタギの名手でもあり、生業が山仕事の氏には仕事と登山の境目のないほどの精通者であった。

また、千代吉氏は女流登山家の黒田初子氏や、日本百名山の作者で有名な、故深田久弥氏のガイドもつとめている。折しも昭和38年開催の新潟国体山岳競技会場が具体的になりつつあったころ、大会本番

にはどうしても、会場の関川村にも山岳会が必要との説得があり、日常生活と登山行為の境目のないような、関川村山の会が創設されたのであった。

会に強大な助っ人が現れたことも、記述に値する。その名は現平田大六会長の入会であった。会長は大学時代からの、都会仕込みの登山家で、会を近代風に育成し、会員の野心をあまり続け、現在もその精神は衰えを知らない。

以後国体本番に備え、準備要員として活動に努めたのであったが、本格的な登山経験者のいない会員は、装備も粗末で、町からお出でになる山岳会の皆さんの装備をうらやましがった事がなつかしく思い出される。

国体の前年に現在の東俣コースを会員が中心になり、開削し、これを契機に会はいよいよ団結を深め、本格的な山岳団体として育っていった。

ここで二、三会の活動をご紹介します。

- ・中国大興安嶺探検
- ・国体山岳競技青年女子の部連続出場
- ・北海道酷寒地幕営研究(連

続17回(17年)挑戦、その名を「新潟母子里研究会」という。

- ・村境(約100km)踏査地域研究
- ・遭難救助現地訓練(毎年)
- と遭難救助活動

会にも運営上の悩みが無い

### 小島六郎さんを偲んで

長岡ハイキングクラブ

土田 幸雄

小島六郎さんが、旧冬12月の13日、故郷の小出町で駒ヶ岳に看取られながら、96歳の天寿を全うされた。

小島さんといえば大正14年8月、早稲田大学山岳部とのき、上高地の主、上条嘉門次をして、「あすこは鳥も通わない」とまでいわせたという伝説のある北アルプスに唯一残された未踏の谷、滝谷の初登攀者として知られている。

この初登攀は、四谷竜胤、小島六郎両氏の早大パーティと、藤木九三、富田碎花両氏のRCCパーティが奇しくも同日、同時刻頃出発、初登攀を争い、多少のルートの違いはあったものの、それぞれが成功したという、異色の記録

わけでもない。それは、新会員の減少である。これからも飯豊をホームグラウンドとしても活動は続く。今後とも宜しくお願いします。

事務局 岩船郡関川村小見

平田大六 方

後、昭和38年頃、藤木九三氏のレリーフ建設湯所をめぐる紆余曲折の原因となったことは、小島さんの『山、山、人間』(スキージャーナル社)に詳しく記されている。

なお、初登攀の記録は、小島六郎著『山に生きて』(ベイスポール・マガジン社)、藤木九三著『雪・岩・アルプス』(中央公論社)にある。

このことでもお分かりのように、小島さんは学生時代から登山に情熱を傾け、東京都山岳連盟会長や、日本山岳協会副会長などを歴任され、日本山岳界の重鎮として活躍されてこられた。

この経歴から大方の人達は山一筋に生きられたという印象を持つが、実は、小島さんは長岡工業を卒業後、早稲田大学に進学し、名門の野球部員として活躍しておられたが大正12年の関東大震災で生活環境が変わり、野球を続けることができなくなり、野球によるスポーツへの道をふさがれてなやんでいたとき、ほんの出来心のつもりで山岳部の計画に参加したのが、山岳部員になったと著書にある。

大学卒業後は、読売新聞の

社会部や運動部記者として長年活躍され、戦後は函館新聞専務取締役としても手腕を発揮された生粋のジャーナリストである。

小島さんの知遇を得たのは昭和39年3月、富士山で行われた日本山岳協会主催の登山指導者研修会である。

小島さんは日本山岳協会常務理事として「最近の遭難について」という演題で講演された。遭難の自己責任を強調しておられたことと、遭難防止の基本は登山者の組織化であって、山岳会は資格審査など言わずに誰でも入会させ底辺を厚くすることだと、熱っぽく話しておられたことが強く印象に残っている。

今になって思えば、山岳遭難をめぐる訴訟が頻発している近年の風潮や、学生山岳部の衰退・崩壊はもろろんのこと、若い登山者の山岳会ばなれを予見しておられたかのような気がする。

気さくなお人柄で宿舍で私たちの部屋においでになられたり、帰途、東京まで中央線で一緒に送っていただき、色々なお話を伺ったこと、その後、東京に勤務していた際、

何度か国立のお家に寄せて頂き、ご高説を拝聴したことなどが、つい昨日のことのように思い出される。

天寿を全うしての大往生とはいえ、人の別れは悲しく、寂寞たる想いでこの文を綴っている。

あの温厚なふくよかな笑顔の大先輩の顔が、天国に旅立たれるときは、瘦せておられたことが何とも悲しい。

小島さんらしい平成6年の年賀状を、天国からお許しを得て紹介し筆を擱く。合掌

『新年お目出度うーと言いたいのだが、自分の歳じゃその声が出ない。』

『90に4を加えたからといって、つむりをまげないで素直になれ。』

『頭のボケで、年賀状の文字に迷うのだから、お目出度うもないじゃないか。』

『なあと、病人じゃなし、元氣を出せ。』

小島六郎

### 理事会報告

日時 97年3月16日

13時30分〜16時15分

会場 新潟市万代市民会館  
出席 五十嵐篤雄・室賀輝男  
石田国夫・鈴木敏雄・藤井信・今成幸夫・平田大六・土田幸雄・七沢恭四郎・桑原悌治・井出秀雄・山田智子・田辺信行・杉本敏・阿部信一・北村猛・坂井厚・田中純夫・堀井浩・藤井洋・渡辺富衛・五十嵐昇・森庄一

○会長あいさつ  
議題

〔1〕平成8年度事業報告

― 原案承認

〔2〕平成8年度収支決算

(中間) ー 原案承認

〔3〕役員の変更について

前回の理事会で、会長から4地区4人の方に選考委員になってもらって選考をすすめている。専門委員を含めて選考する。

委員は、七沢恭四郎、土田幸雄、井出秀雄、田辺信行

〔4〕規約の一部改正について

規約第19条に規定する分担金の一部改正について  
※内容は新山協ニュース120号に掲載

原案を評議員会にはかる

こととした。

〔5〕平成9年事業計画につ

いて  
原案は、8年度に準じて計画したものである。  
承認された。

〔6〕平成9年度収支予算案について

原案を承認した。

〔7〕創立50周年記念特別事業について

記念式典

記念山行

県内

蒜場山10月18日〜19日

海外 メコン河源流チア

ジャジマ峰5930m

7月25日〜8月20日

記念誌の発行

〔8〕その他

①東北地区海外登山研究会

チョモランマ2000計

画について

(説明 田中純夫)

### 指導員研修会

#### 通信欄より

井口正男

小生病気療養中の為出席できません。諸氏によろしく。協会の益々の発展をお祈りします。

田中純夫

2月22日〜23日と東京の八王子市で日山協海外登山技術研修会があり、そちらに出席となります。

ます。  
五十嵐和則  
2月16日五頭山登山を行いました。会員6名です。

桑原悌治

過日別便にて講師依頼あり、当日都合がはずどうしたのかと思っていたら、今回の文書で了解いたしました。同日JA用務と重なり誠に残念です。

藤井 信

北信越5県会議と研修会は同日です。鈴木会長と調整した結果、小生が福井県に出席することになりました。

佐々木 廣

2月23日は、五泉・村松地域山岳団体親睦登山の為欠席です。

吉田光二

案内を見て、三条市にスポーツドクターがいらっしゃることを知り、うれしくなりました。

笛木 一雄

お陰様で5周年を迎える事ができました。今年度から魚沼の自然を守るため、植樹を致します。

小林重一

県山協の新年会楽しかったですよ!!

佐々木敏郎

1月19日に4名で二分〜大平保久礼小屋〜大岳のコースをスキーで行ってきましたが、

雪不足で大平から先の標高570m付近の沢を渡れず北方尾根を大回りしました。新雪が70cm積もりラッセルを強いられ、保久礼小屋に着いたのが12時30分頃でした。

田邊信行

JAC事務局担当者会議と同日になりました。

加藤レイ子

真冬は角田、弥彦、国上などの近くの山に登って楽しんでます。

佐藤照夫

当日糸西無線赤十字奉仕団の非常通信訓練にでます。

## 登山用品専門店

信頼できるパートナー

## 大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736